

THE RECORD

RIAJ 社団法人 日本レコード協会

平成7年1月1日発行

RECORDING INDUSTRY ASSOCIATION OF JAPAN

〒104 東京都中央区築地2-8-9 Tel (3541) 4411(代)

平成7年1月号 No. 422

皆様には輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年はレコード業界にとりまして、「CD-R問題の顕在化」、「マルチメディアと著作権処理問題が大きな課題になる」など、大きな時代の変化のうねりを実感し、21世紀に向けて産業としての課題の輪郭がより確かに姿を現した年だったと思います。

さて、昨年来の当協会の重要課題のひとつであり、高度情報化社会に対応しての

「送信権」の設定、レコードの二次利用に関する権利の及ぶ範囲の拡大を目指しての「演奏権」の獲得、そして「輸入権」の設定に関してですが、今年は何とかならず、年初より積極的に訴えてきたいと考えております。

また、マルチメディア対応にしましては、レコード製作者にとりまして、新たなビジネスチャンスとしての側面と同時に、レコード製作者の権利保護の問題があります。当協会としましては、このビジネスチャンスをどう取り込んでいくかという

年頭所感

音楽文化の更なる発展のために 21世紀への礎となる年に

社団法人 日本レコード協会
会長 松尾修吾

ことと並行して、マルチメディアに利用されるレコード音楽の権利保護について研究することが要求されてきております。そのような意味から、当協会では昨年末に技術、法制、営業の合同スタッフによるプロジェクトを発足させました。また、著作権審議会の提唱に基づいて設立された権利者側の団体「マルチメディア問

調、連携により、問題の解決に当たりたいと考えております。

更に、当協会のもう一つの重要課題として掲げております「需要拡大」に関しましては、昨年実施しました「Q盤キャンペーン」が、製販一体となり当初よりの目標であります。「中高年層ユーザーの獲得」「新しい商品ラインの定着」に向けて着実に一歩を踏み出したところではあります。今年も継続して推進し、より一層の定着を図ると同時に、需要拡大事業の一つの大きな柱として「音楽ギフトカード」の普及事業にも、これまでに力を入れて取り組んでいきたいと考えております。

題に関する著作権連絡協議会」及び、製作者側の団体「マルチメディア製作者連絡協議会」に参加し研究を開始したのも同様の意味合いからです。

また、著作権問題あるいは技術規格の問題にしましては、国際レベルでの研究、推進が一層強く求められる時代にきております。世界の一員としての役割を認識し、国際間の協

新たな年を迎え、音楽文化の更なる発展のために、新しい世紀への礎となる年にしたいと考えております。本年も、皆様のなご一層の御支援をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



レコード協会が選んだ 平成6年の10大ニュース

日本レコード協会加盟の各レコード会社から「平成6年の10大ニュース」を寄せて頂きました。類似内容については、各社の選出主旨を損わないよう留意して、項目をまとめました。

① 民生用CD-R問題

平成5年の家電メーカー数社による商品化の発表で顕在化した、民生用CD-R問題ですが、平成6年9月には米国で商品が発売されたのに続き、11月にはドイツでも発売が開始されました。日本においてはCDレンタル問題を抱え、「私的複製問題」が非常に深刻であること。また私的録音補償金制度の対象に指定する政令化問題が存在することから、国内関係権利者団体と協議し「民生用CD-Rの発売による損害予測調査」及び「デジタルの私的複製に関する法律制度の整備に向けての研究」を開始しました。

また、国際的な共通課題として技術的著作権対策を中心にIFPI、RIAAと引き続き協議を重ねて行くにしています。

② 邦盤レンタル3週間禁止へ

平成6年10月1日より、邦盤の貸与禁止期間が最長3週間に移行されました。レンタル商組との貸与権の運用ルールの基本合意に基づき、段階的に移行してきたもので、その最終段階として実施されました。前回の第2ステップ移行時には、邦盤の貸与禁止措置の見直しを行いました。今回はCDレンタル業界を取り巻く環境等に大きな変化がなかったことから、合意により最終段階に移行されました。

③ Q盤キャンペーン実施

当協会の需要拡大事業の一環として、予てより準備を進めてきました。Q盤キャンペーン

が、平成6年5月よりスタートしました。このキャンペーンは「中高年齢ユーザーの獲得」「新しい商品ライン(レコード店における文庫本コーナー)の定着」を目標としスタートしたもので、夏、冬の2回、各社からの新譜発売が集中する拡売時期に集中して、店頭展開、宣伝広告が実施されました。ユーザーの反応も上々で、業界内外で話題になっていることから、今後も引き続き継続し、より一層の定着を図っていく予定です。

④ マルチメディアの話題沸騰

平成6年の産業界全体のキーワード「マルチメディア」。当協会も、新たなビジネスの可能性を研究すると同時に、マルチメディアに利用されるレコード音楽の権利保護についても十分検討することが要求されてきております。当協会では、来るべき新たな時代に対応すべく、技術、法制、営業の合同スタッフによるプロジェクトを発足させまた著作権審議会の提唱に基づいて設立された権利者側の団体「マルチメディア問題に関する著作権連絡協議会」及び製作者側の団体「マルチメディア製作者連絡協議会」に参加し研究を開始いたしました。

⑤ 洋楽レコードの売上好調

平成5年から洋楽の生産が、数量、金額共に増加傾向にありましたが、平成6年に入っても、この傾向はますます顕著になっていきます。対前年比においても、前年に引き続き2桁の伸長が見込まれ、洋楽音楽ディスクの生産金額は、平成5年が千八百七十七億円でしたが、平成6年は千三百億円を越える勢いです。音楽ディスク全体に占める洋楽の比率も、平成5年の二十四・六%から二十八%前後に外資系大型店進出・競合激化する勢いです。

⑥ 外資系大型店進出・競合激化

平成2年頃から、外資系大型店の出店が、レコード業界の大きな話題になっていますが、

その後も、出店、拡張が相次ぎ、特に平成6年に入ってから、東京ターミナル地区での出店に続き、地方の主要都市での出店が相次ぎ、業界全体の成長がやや鈍化した環境のもと、既存店との競合が激化しました。

⑦ 複合型CD大幅伸長

パッケージ系マルチメディアとして話題のCD-ROM、CD-I、CDグラフィックなど複合型CDが生産実績において、前年の約3倍と、大幅に伸長しました。金額ベースで二百億円を越える勢いで、これは、音楽テープの生産実績に迫る実績となります。

⑧ PL法の制定

平成6年7月「PL(製造物責任)法」が制定され、平成7年7月より施行されることから当協会では「消費者専門部会」(これまでは、工場の品質管理部門の責任者で構成)を会員各社のPL責任者による全社組織に改組して対応することになり、研修会の開催を初め、PL法に関する基礎的な研究から活動を開始しました。

⑨ 洋楽/FMフォーラム開催

当協会加盟レコード会社洋楽部門とFM局有志によって構成された「FMフォーラム実行委員会」主催、当協会後援による「第一回FMフォーラム」が9月に開催されました。レコード会社、FM関係者、約三百名が一堂に会し、2日間に亘るセミナーが実施され、「FMラジオ」とレコード会社は音楽を通じた運命共同体」とレコード会社は音楽を通じた換と相互理解の促進が図られたました。

⑩ 音楽ギフトカードの累計発券金額百億円突破

音楽ギフトカードは、平成6年に発券から7年目を迎え、累計百億円を突破したことから「百億突破感謝記念」と銘打ち、11月にプレミアム付き記念チケット(限定3万冊)を発売しました。今後も、より一層の認知、定着を図っていく予定です。

平成7年の重要課題

新しい年を迎えるに当って、日本レコード協会は、加盟各社に「平成7年の重要課題」を求めました。

この結果、次に掲げる項目が重要課題として指摘されました。

レコード製作者の権益拡充に関する課題

- ・送信権の確立
- ・レコードの二次使用権の及ぶ範囲の拡大
- ・輸入権の設定
- 技術革新に関する課題
 - ・民生用CD-R問題
 - ・マルチメディア時代への対応
- (デジタル伝送/マルチメディアソフト)
- 需要拡大に関する課題
 - ・旧譜の活性化
 - ・音楽ギフトカードの普及・促進

レコード産業がより一層の発展を続けるためには、時代の変化に対応し、ここに掲げる重要課題に積極的に取り組み、着実な歩みを進める必要があります。

レコード製作者の権益拡充に関する課題

昨年来の重要課題を引き継いだ形になりましたが、デジタル伝送時代に対応す

る排他的権利としての「送信権」の設定、レコードが営利目的に演奏利用される場合の二次使用権の及ぶ範囲の拡大と権利内容の強化、加えて、発展途上国などからの海賊版などの流入防止を目的

とする「輸入権」の設定は、今後のレコード産業の発展のために最優先で取り組まなければならない課題です。これらの課題の早期解決に向けて、より一層の啓蒙活動、法改正促進に取り組むことが必要です。

技術革新に関する課題

・民生用CD-R問題

平成6年の10大ニュースでも取り上げましたが、デジタル技術の進歩により開発された、民生用CD-Rは、音質においても、形状においても、CDそのものである、いわゆるクロノコピーが可能でな機器であるということがレコード産業にとって大きな問題です。今後のレコード産業の健全な発展のために、関係権利者団体と協調し、デジタルの私的複製に関する法律制度の整備に向けて十分検討することが必要です。またIFPI、RIAAとも引き続き連携し、技術的防壁対策等についても協議を重ねて行くことが必要です。

・マルチメディア時代への対応

(デジタル伝送)
デジタル伝送の時代を控え、今後デジタル伝送メディアによる多種多様なレコード音楽の利用形態が予測されます。デジタル伝送時代に備え、CDの高付加価値化によるパッケージ商品としての機能、魅力の向上、あるいはISRCの実施徹底とデータベースの構築による伝送時代に対応した技術的対策の実施など、更に継続して基盤整備に取り組む必要があります。

(マルチメディアソフト)

当協会集計の複合型CDの伸長にも見られるように、マルチメディア・ソフトの普及が進んでいます。レコード産業としても、このビジネスチャン

を活用すべく、新たな技術を研究し、積極的に取り込んで行くことが必要です。その一方でレコード製作者として、マルチメディアに利用されるレコード音楽の権利保護についても十分検討することが必要です。

需要拡大に関する課題

・旧譜の活性化

産業発展のためには、総需要の拡大が条件です。会員各社がより多くの優れた新譜作品を常に送り出していくことが必要です。その一方で業界としての共通の課題である、旧譜の活性化、中高年層ユーザーの音楽市場への誘引にも取り組むことが大切です。平成6年から開始した「Q盤キャンペーン」は、製販が一体となり、このような課題に取り組んだ結果、一定の成果を上げることができました。平成7年も、「新しい商品ラインの定着」に向けて、より一層の推進が求められます。また同時に業界の財産とも言える旧譜の活性化のために、また新たな施策を構築し実施していくことが大切です。

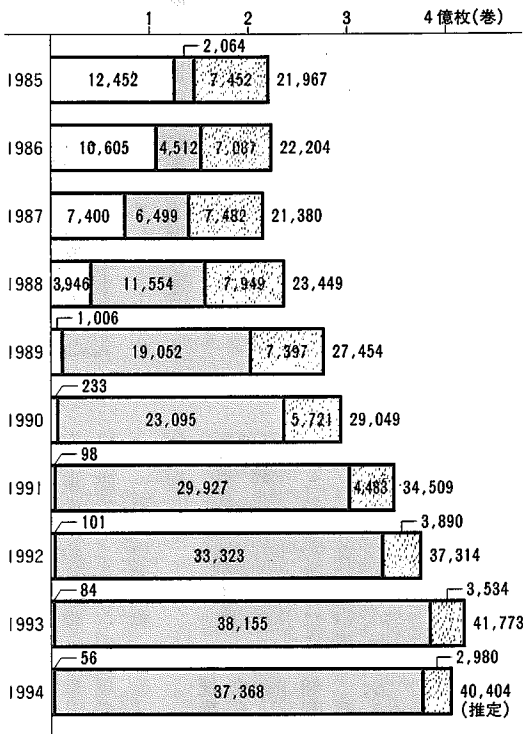
・音楽ギフトカードの普及・促進

当協会が8年前から需要拡大事業の一環として取り組んできました「音楽ギフトカードの普及・促進」は年々その成果を上げ、平成6年には累計発券金額で百億円を突破しました。また新聞の調査によると、「贈り物として欲しいギフト券」の第2位にランクされるなど着実に世の中に浸透してきております。この音楽ギフトカードのより一層の認知、定着を図って行くことは、そのまま需要拡大に直結することから、これまで以上に普及・促進に注力することが大切です。

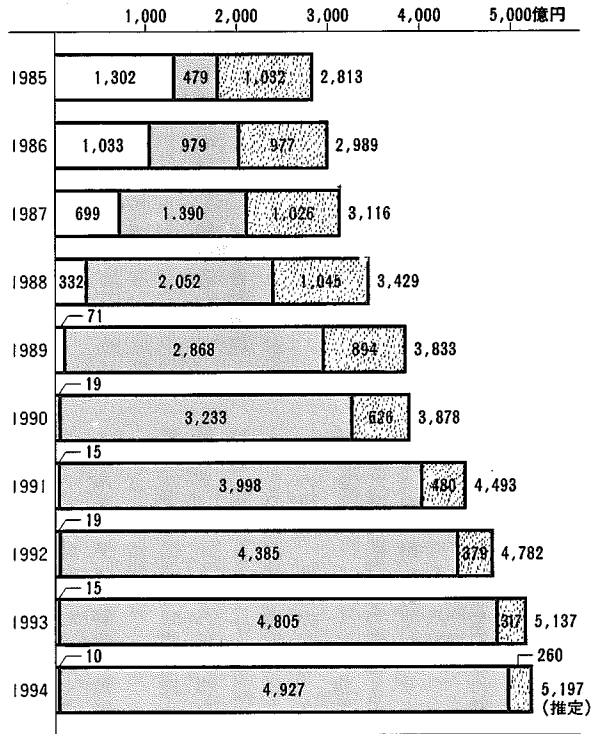
1994年生産の状況

1. オーディオレコード生産の推移 (ディスク/テープ)

(1) 年産数量 □アナログディスク □CD □テープ

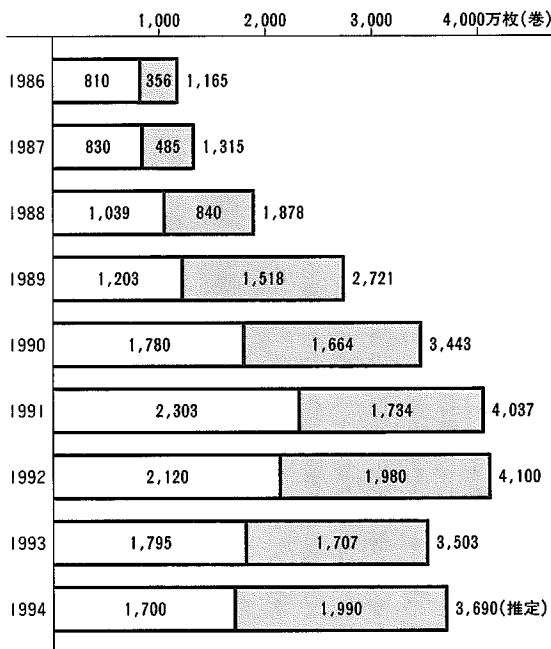


(2) 年産金額 □アナログディスク □CD □テープ

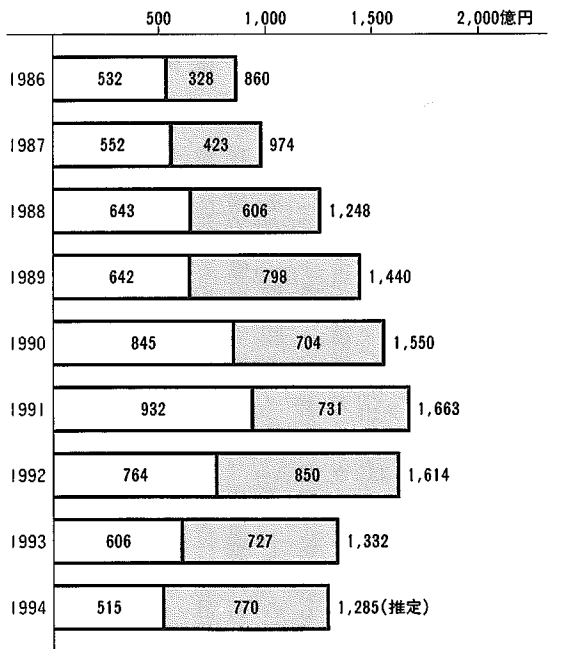


2. ビデオレコード生産の推移 (ディスク/テープ)

(1) 年産数量 □ビデオディスク □ビデオテープ



(2) 年産金額 □ビデオディスク □ビデオテープ



1994年レコード生産の概況

1994年（1～12月の推計）のレコード生産概況は、オーディオ、AV複合型及びビデオを合わせた総生産は、数量46,934万枚・巻（前年比102%）、金額6,753億円（前年比103%）となりました（当協会加盟各社の集計）。

オーディオ・レコードの生産は、数量40,404万枚・巻（前年比97%）、金額5,197億円（前年比101%）となりました。このうちテープは、6年連続して数量・金額ともに大きく減産しました。

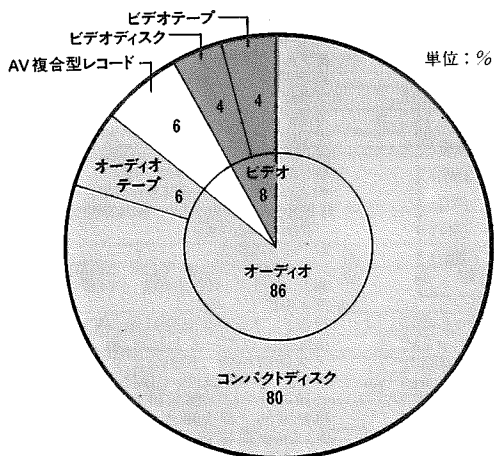
AV複合型レコード（CDグラフィックス、ビデオCD、CD-ROMなど）の生産は、数量は2,840万枚（前年比297%）、金額は271億円（前年比285%）となり、生産数量・金額ともに著しい伸張を示しました。

ビデオ・レコードの生産は、数量3,690万枚・巻（前年比105%）、金額1,285億円（前年比96%）で、生産数量は伸びましたが、生産金額はマイナス成長となりました。

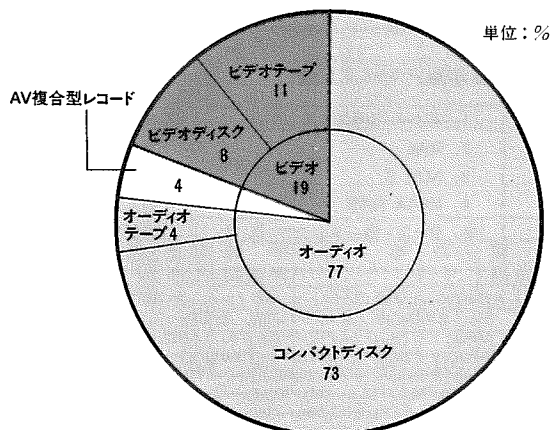
1994年レコード総生産高（推定）

種類	数量 (万枚・巻)	構成比 (%)	前年比 (%)	金額 (億円)	構成比 (%)	前年比 (%)
オーディオ レコード	アナログディスク	56	0	67	10	0
	コンパクトディスク	37,368	80	98	4,927	73
	小計	37,424	80	98	4,937	73
	テープ	2,980	6	84	260	4
	合計	40,404	86	97	5,197	77
AV複合型レコード	2,840	6	297	271	4	285
ビデオ レコード	ディスク	1,700	4	95	515	8
	テープ	1,990	4	117	770	11
	合計	3,690	8	105	1,285	19
総合計	46,934	100	102	6,753	100	103

1994年レコード生産数量比率（推定）



1994年レコード生産金額比率（推定）



日本レコード協会ヒットチャートデータによるランキング

平成6年11月度(10月21日~11月20日)のヒットチャートデータがまとまりました。これによる各ランクの5位までは次のとおりです。

順位	タイトル	アーティスト	発売元
■邦楽・洋楽合同シングル 5位			
1.	Tomorrow never knows	MR. CHILDREN	(TF)
2.	めぐり逢い	CHAGE & ASKA	(PC)
3.	すき/きづいてよ	ドリームズ・カム・トゥルー	(SME)
4.	春よ、来い	松任谷由実	(TO)
5.	愛のために	奥田民生	(SME)
■洋楽シングル 5位			
1.	恋人たちのクリスマス	マライア・キャリー	(SME)
2.	ラスト・クリスマス	ワム!	(SME)
3.	エンドレス・ラヴ	ルーサー・ヴァンドロス & マライア・キャリー	(SME)
4.	薔薇色のメヌエット	ポール・モーリア	(PH)
5.	トウシェ	Vie Vie	(C)
■邦楽・洋楽合同アルバム 5位			
1.	永遠の夢に向かって	大黒摩季	(BG)
2.	メリー・クリスマス	マライア・キャリー	(SME)
3.	PHARMACY	槇原敬之	(WJ)
4.	Melodies & Memories	チューブ	(SME)
5.	LOVE OR NOTHING	中島みゆき	(PC)
■クラシックアルバム 5位			
1.	大江 光ふたたび	海老彰子 (p)・小泉 浩 (fl) 加藤知子 (Vn)	(C)
2.	大江 光の音楽	海老彰子 (p)・小泉 浩 (fl)	(C)
3.	グレゴリアン・チャント (クリスマス・スペシャル)	フランシスコ・ララ指揮 シロス修道院合唱団	(TO)
4.	エーデルワイス	ジュリー・アンドリュース	(PH)
5.	NOW CLASSICS	シロス修道院合唱団 他	(TO)
■洋楽アルバム 5位			
1.	メリー・クリスマス	マライア・キャリー	(SME)
2.	MAX	マライア・キャリー 他	(SME)
3.	NOW 2	ザ・ローリング・ストーンズ 他	(TO)
4.	MEGA HITS	ホイットニー・ヒューストン 他	(BV)
5.	クロス・ロード	ボン・ジョヴィ	(PH)

* 日本コロムビア(C)/ビクターエンタテインメント(V)/キングレコード(K)/ティチク(TE)/ポリドール(PO)/東芝EMI(TO)/日本クラウン(CR)/徳間ジャパン(TJC)/ソニー・ミュージックエンタテインメント(SME)/日本フォノグラム(PH)/ボニーキャニオン(PC)/ワーナーミュージック・ジャパン(WJ)/アポロン(AP)/フォーライフレコード(FL)/バップ(VAP)/トラスレコード(TA)/ポリスター(PS)/アルファレコード(AL)/キティエンタープライズ(KT)/ファンハウス(FUN)/イーストウエスト・ジャパン(EW)/BMGビクター(BV)/NECAベニュー(NA)/WEAミュージック(WEA)/メルダック(ME)/ハミングバード(HB)/TDKコア(TDK)/メディアレモラス(MR)/AXEC(AX)/トイズ・ファクトリー・レコード(TF)/バンダイ(BC)/ハイオニアLD(CP)/MCAビクター(MV)/ロッキング・レコード(RO)/エイベックス・ティーン・ティーン(AV)/ピージ(BJ)/ソニレコード(ZA)/BMGルームス(BM)/ビーグラム(BG)/ワン・アップ・ミュージック(EP)

11月度「ゴールド・アルバム」他認定作品

11月度のゴールド・アルバム他が次のとおり認定されました。

■アルバム(35作品)

●ミリオ

Single is Best/平松愛理 (PC)
永遠の夢に向かって/大黒摩季 (BG)
メリー・クリスマス
マライア・キャリー (SME)

●ダブル・プラチナ

PHARMACY/槇原敬之 (WJ)
The Best Of Dreams
/REBECCA (SME)
X SINGLES/X (SME)
クロス・ロード/ボン・ジョヴィ (PH)
MAX/マライア・キャリー他 (SME)
NOW 2
ザ・ローリング・ストーンズ 他 (TO)
MEGA HITS
ホイットニー・ヒューストン 他 (BV)
エロティカ/マドンナ (WJ)

●プラチナ

Melodies & Memories/チューブ (SME)
LOVE OR NOTHING/中島みゆき (PC)
MOTHER/LUNA SEA (MV)
TMN BLACK~T. Komuro Presents
/TMN (SME)
砂時計/宇徳敬子 (ZA)
グレイテスト・ヒッツ
シンディ・ローパー (SME)
ベッタイム・ストーリーズ/マドンナ (WJ)
ネヴァーマインド/ニルヴァーナ (MV)

●ゴールド

COLORS/久宝留理子 (SME)
She・See・Sea/鈴木雅之 (SME)
永遠のシュール/井上陽水 (FL)
7 DAYS GIRL/平松愛理 (PC)
極東サンバ/THE BOOM (SME)
EDEN/LUNA SEA (MV)
A LONG VACATION/大滝詠一 (SME)
INDIVIDUAL/MANISH (ZA)
ビッグ・ワンス/エアロスミス (MV)
ヘル・フリーゼズ・オーヴァー
/イーグルス (MV)
ノー・クォーター
ジミー・ペイジ&ロバート・プラント (PH)
エニタイム・ユー・ニード・ア・フレンド
/マライア・キャリー (SME)
村(TSUI)/ピンク・フロイド (SME)
BAD/マイケル・ジャクソン (SME)
GUITAR SHOP/ジェフ・ベック (SME)
フィールズ・オブ・ゴールド〜ベスト・オブ・
スティング1984-1994/スティング (PO)

■シングル(19作品)

●トリプル・プラチナ

Tomorrow never knows
/MR. CHILDREN (TF)
恋人たちのクリスマス
/マライア・キャリー (SME)

●ダブル・プラチナ

めぐり逢い/CHAGE&ASKA (PC)

●プラチナ

すき/きづいてよ
/Dreams Come True (SME)
愛のために/奥田民生 (SME)
祭りのあと/桑田佳祐 (V)
がんばりましょう/SMAP (V)
TENCAを取ろう! - 内田の野望 -
/内田有紀 (K)
雪のクリスマス
/Dreams Come True (SME)
春よ、来い/松任谷由実 (TO)

●ゴールド

月ひとしずく/小泉今日子 (V)
夜に抱かれて~A night in Afro Blue
/久保田利伸 (SME)
手紙/米米CLUB (SME)
永遠の果てに/徳永英明 (AP)
移動電話/井上陽水 (FL)
さよなら/久宝留理子 (SME)
SCANDALOUS BLUE/access (FUN)
DAYS/藤井フミヤ (PC)
夢のまた夢/鈴木雅之 (SME)

1994年11月レコード生産実績

数量：千枚・巻
単位
金額：百万円

表1. オーディオディスク

	11月 実績						1994年(1月～11月) 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
C	邦洋計	11,881	29	80	7,586	14	78	121,809	35	87	78,511	18	89
	邦洋計	602	1	208	257	0	148	2,927	1	122	1,549	0	108
	計	12,483	31	82	7,843	14	80	124,736	36	87	80,060	18	89
D	邦洋計	18,074	45	92	31,257	57	85	139,589	41	102	245,330	55	101
	邦洋計	9,796	24	124	15,122	28	125	79,719	23	115	121,678	27	117
	計	27,870	69	101	46,379	85	95	219,308	64	106	367,007	82	106
D小計	邦洋計	29,955	74	87	38,842	71	84	261,398	76	94	323,841	72	98
	邦洋計	10,399	26	127	15,379	28	126	82,646	24	115	123,226	28	116
	計	40,353	100	94	54,222	100	93	344,044	100	99	447,067	100	102
Aソング	邦洋計	9	0	36	15	0	48	209	0	145	314	0	236
	邦洋計	62	0	97	126	0	97	313	0	51	595	0	49
	計	72	0	79	141	0	87	522	0	69	908	0	67
合計	邦洋計	29,964	74	87	38,857	71	84	261,607	76	94	324,155	72	98
	邦洋計	10,461	26	126	15,505	29	125	82,959	24	115	123,821	28	116
	計	40,425	100	94	54,362	100	93	344,566	100	98	447,976	100	102

表2. オーディオテープ

	11月 実績						1994年(1月～11月) 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
カセット	邦洋計	2,669	98	86	2,588	97	80	26,476	99	85	22,986	98	82
	邦洋計	56	2	145	74	3	137	390	1	75	458	2	68
	計	2,725	100	87	2,662	100	81	26,866	100	85	23,444	100	82
カートリッジ	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	邦洋計	2,669	98	86	2,588	97	80	26,476	99	85	22,986	98	82
	邦洋計	56	2	145	74	3	137	390	1	75	458	2	68
	計	2,725	100	87	2,662	100	81	26,866	100	85	23,444	100	82

表3. 複合型CD (CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

	11月 実績						1994年(1月～11月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦盤	3,900	99	234	2,695	98	197	22,780	100	287	20,295	99	271
洋盤	41	1	11,541	54	2	6,386	83	0	92	126	1	350
合計	3,941	100	237	2,749	100	201	22,863	100	285	20,421	100	271

表4. ビデオレコード

	11月 実績						1994年(1月～11月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
ディスク	1,855	50	94	5,362	47	79	15,468	47	95	46,990	41	85
テープ	1,842	50	78	6,017	53	64	17,362	53	111	67,616	59	102
合計	3,697	100	86	11,378	100	70	32,830	100	103	114,606	100	94

表5. オーディオ/ビデオ/AV複合型レコード合計

	11月 実績						1994年(1月～11月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	43,150	85	94	57,025	80	92	371,433	87	97	471,420	78	101
複合型CD	3,941	8	237	2,749	4	201	22,863	5	285	20,421	3	271
ビデオ	3,697	7	86	11,378	16	70	32,830	8	103	114,606	19	94
合計	50,788	100	98	71,152	100	89	427,126	100	101	606,447	100	102

備考 1. 本年実績は、会員会社「27社」の集計である。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

迎春

■1995.1.1現在 加盟社27社(創立・加盟順)

日本コロムビア株式会社	〒107-11 東京都港区赤坂4-14-14 (3584)8111
ビクターエンタテインメント株式会社	〒150 東京都渋谷区神宮前4-26-18 原宿ピアザビル (3746)5550
キングレコード株式会社	〒112 東京都文京区音羽1-2-3 (3945)2131
テイテック株式会社	〒105 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル (3506)8717
ポリドール株式会社	〒153 東京都目黒区大橋1-8-4 (3780)8501
東芝EMI株式会社	〒107 東京都港区赤坂2-2-17 (5512)1700
日本クラウン株式会社	〒107 東京都港区赤坂2-10-8 信和ビル (3582)4741
株式会社 徳間ジャパンコミュニケーションズ	〒105 東京都港区新橋1-18-21 第1日比谷ビル (3591)9179
株式会社 ソニー・ミュージックエンタテインメント	〒162 東京都新宿区市谷田町1-4 (3266)5995
日本フォノグラム株式会社	〒106 東京都港区六本木4-8-5 和幸ビル (3479)3711
株式会社 ポニーキャニオン	〒104 東京都中央区入船2-1-1 住友入船ビル (3555)6611
株式会社 ワーナー・ミュージック・ジャパン	〒107 東京都港区北青山3-1-2 (5412)3111
株式会社 アポロン	〒162 東京都新宿区余丁町3-8 (5379)3500
株式会社 フォーライフレコード	〒154 東京都世田谷区池尻3-28-8 (5430)3106
株式会社 バップ	〒102 東京都千代田区四番町5-6 日本テレビ四番町別館 4 F (3234)5711
トースレコード株式会社	〒150 東京都渋谷区神宮前5-7-20 神宮前太田ビル (3499)7080
株式会社 ポリスター	〒150 東京都渋谷区恵比寿南2-14-6 (5721)3211
アルファミュージック株式会社	〒107 東京都港区南青山5-4-40 橋本ビル2F (5466)2190
株式会社 キティエンタープライズ	〒153 東京都目黒区大橋1-8-4 (3780)8660
株式会社 ファンハウス	〒150 東京都渋谷区恵比寿南2-20-7 (3792)5200
株式会社 イーストウエスト・ジャパン	〒107 東京都港区北青山3-1-2 (5412)3511
BMGビクター株式会社	〒150 東京都渋谷区渋谷1-3-9 (3797)9020
NECアベニュー株式会社	〒213 神奈川県川崎市高津区久本2-4-1 044(857)7690
株式会社 メルダック	〒107 東京都港区北青山2-7-9 日昭ビル 8 F (3423)2525
パイオニアLDC株式会社	〒150 東京都渋谷区恵比寿南1-20-6 (5721)4124
株式会社 メディアレモラス	〒160 東京都新宿区四谷4-28 YKBエンサインビル (3356)0361
MCAビクター株式会社	〒150 東京都渋谷区神宮前5-52-2 JBPオーバル9F (5467)9500

レコード…限りなく広がる夢

私たちレコード会社は
レコードに託す夢を
皆さまとついに、大切に
育てていきたいと思ひます

社団法人/日本レコード協会 〒104 東京都中央区築地2-8-9
☎ 03(354)1441(代)